

【資料】

地理学の巡検と旅行の違いを探る — 一日巡検授業実践報告 —

長谷川 直子

I はじめに

地理学コースで行っている一日巡検の中で、今回は東京の中でも観光地としても有名な新宿・原宿・表参道・青山・渋谷エリアを取り上げて、その地域を通る渋谷川に注目しながら巡検を行った。巡検タイトルとしては「山の手の地理的事象を巡る旅」である。一般的にも有名な観光エリアを通ることから、通常の巡検資料だけでなく、市販の旅行ガイドブックの該当ページも事前に配布し、観光と巡検の違いや地域をどう捉えているか等について、参加学生の認識を同時にアンケート調査した。参加学生は関東圏在住であるので、今回の調査地については旅行で行く場所というよりは町歩きに近い感覚があるかもしれないが、ある程度の予察的な考察は行えると考えた。本資料ではこのアンケート調査の結果を中心に報告する。

なお、巡検は2014年8月9日に実施し、参加学生は11名で、その全員が地理学を専攻している学生であった。

II 巡検の趣旨

今回の巡検では、新宿から渋谷に至るエリアで、渋谷川によって作られた台地と谷における土地利用や地域資源の差異について紹介した。

東京は明治維新後の帝都改造計画によって都市部の整備が行われた。明治後半には人口増加によって、小石川・牛込・青山など台地部である山の手の宅地化が進んだ。新宿・渋谷はその縁にあたる部分である。現在は、ファッションの発信地として多くの若者が集まっている地域の変化を理解するため、新旧の地形図を使い、地理的事象を押さえていく。

途中、原宿・表参道など、東京の中でも「おしゃれ」といわれる地域を巡り、その成立過程や街の雰囲気、来る人がそこに何を求めているのかも考えた。

III 巡検ルート

図1に巡検のルートを示す。

以下の数字は地図中の番号に対応している。①東京都庁第一庁舎1階正面口（9時30分集合）→東京都庁第一

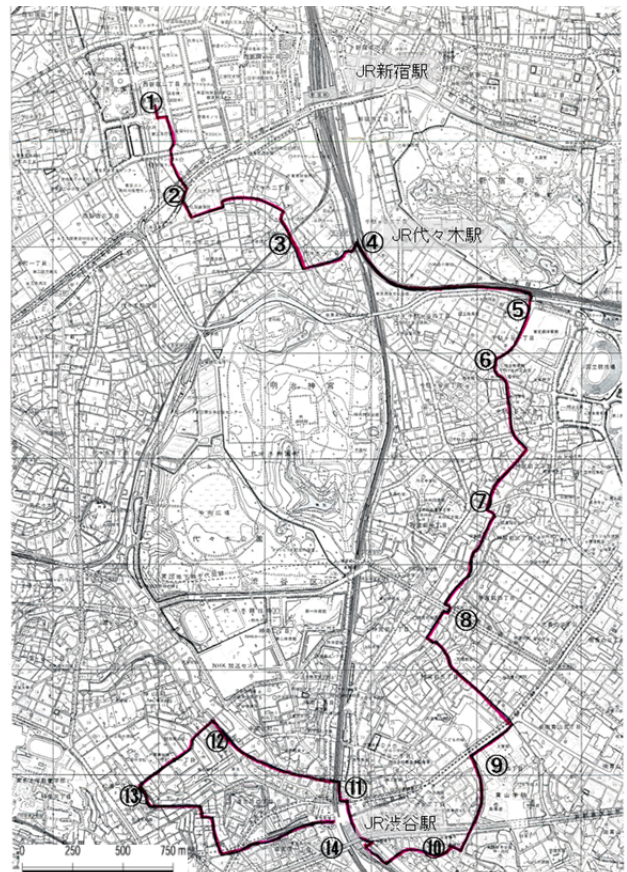


図1 巡検ルート

庁舎南展望室見学→甲州街道→②玉川上水跡→代々木三丁目・代々木二丁目→③小田急線南新宿駅→千代通り→④JR代々木駅→（鉄道利用）→⑤JR千駄ヶ谷駅→東京体育館前→⑥鳩森八幡神社（富士塚）→神宮前二丁目商店街→⑦神宮前三丁目→隠田川（旧渋谷川上流遊歩道）→⑧表参道→表参道ヒルズ（旧同潤会アパート）→キャットストリート→宮下公園→⑨青山学院大学（昼食及びタワーからの展望）→⑩金王神社→渋谷川開渠部→⑪渋谷駅東口→渋谷川暗渠部→井の頭通り→⑫宇田川暗渠部→宇田川遊歩道→松涛一丁目→⑬鍋島松涛公園→渋谷円山町→渋谷マークシティ（渋谷駅）→渋谷マークシティ・⑭JR渋谷駅連絡通路解散。

IV 学生の声

1. 巡検参加前のアンケート

巡検実施前に配布した事前資料は、当該地域の地理的説明が書かれている書籍のコピーと同地域の市販の旅行ガイドブック『ことりっぷ東京』(昭文社 2008)ならびに『まっぷる東京ベストスポット』(昭文社 2013)のコピーである。また、それに加えて事前アンケートもつけ、巡検前に記入してもらい巡検当日の朝回収した。事前アンケートの内容とその回答は以下の通りである。

「新宿・渋谷・表参道を巡検ではなく回るとしたら、どんなスポットを訪れたり何をするか？」という質問項目に対して、ほとんどの参加者が買い物(ウィンドウショッピングを含む)と飲食(ランチやお茶)と答えていた。

また、事前に『ことりっぷ』と『まっぷる』の該当ページを配布し、「その中で興味を持ったところはどこか？」と聞いたところ、表参道のカフェ(パンケーキ店、ベーカリー含む)に写真のインパクト(美味しそう、特集されている)で惹かれていた人が最も多く6名で、渋谷ヒカリエが2名、根津美術館が2名であった。

2. 巡検実施後のアンケート

巡検の最後に再度アンケートを配布し、記入してもらった。以下の回答は学生の記述をそのまま記載している。また、回答者ごとに記載を分けた。

「今回の訪問地を、巡検ではなく回るとしたら、どんな場所を訪れたり、何をしたりしますか？」という問いに対する答えは以下の通りである。

- ・新宿・・・本屋で本を買ったり、丸井やビックロで買い物をしたり、東口で食事をしたり。都庁、駅周辺で買い物したりごはんを食べる。駅周辺(ルミネ)を中心にショッピングをする。あまり都庁方面には行かないと思う。今まで行ったことのなかった西新宿方面を歩いて、どんな建物があるのか観察する。その時に、今まで気にしたことのない土地利用を注目してみたい。西側だけでなく、新宿駅周辺を一周する。駅ビル、新宿御苑→買い物、公園内を散策。サザンテラスなど人ごみのひどくない所でゆっくりする。ショッピング。駅ビル(ODAKYUなど)にて買い物、都庁前・新宿御苑を散歩。駅ビルで買い物(ルミネなど)。高いビルを見に行きたい。いろんな場所に行き、オフィス街・住宅街・ショッピング街などの特徴を見つけたい。
- ・原宿・・・竹下通りでアクセサリを買う。竹下通りやラフォーレ原宿で買い物、明治神宮で参拝。竹下通りであっさりめのクレープを食べて、ちょっと落ち着

いた所にある個人経営のカフェに行く。いわゆる裏原宿の方面に行き、あまり栄えていない方面へ行って歩き回ってみたい。竹下通りとその周辺の道をゆっくり散策する。食べ歩き。明治通り・ラフォーレ原宿→ショッピング。竹下通りを周った後、クレープを食べる。ショッピング、異文化体験。明治神宮参拝、竹下通りで買い物。ラフォーレ原宿で買い物。人が多いので、ビルなどには入らず外をぶらぶらする。

- ・表参道・・・パンケーキなどをカフェで食べる。表参道ヒルズに入ってみて歩く。いわゆる「有名店」のカフェなどに並ぶ。以前マックスブレナーが4時間待ちであきらめたので今度は頑張って並んで美味しいチョコレートをいただきたい。開発された場所と昔のままの場所が混在しているのがおもしろかった。裏道の混在している場所を探し歩いてみたい。表参道の大通りの坂を上って街の様子を見ながら歩く。表参道のショッピング。表参道ヒルズ。ウィンドウショッピングとおしゃれなレストラン・カフェでご飯。東急プラザでお茶する。表参道ヒルズを見る。レストランに行きたい。ショッピングなどを少し入ったところで行きたい。大通り沿いにひたすら歩いて変化を見たい。

「今回の訪問地を、その土地を知らない友達に自分が案内するとしたら、どんな場所を案内しますか？」という問いに対する答えは以下の通りである。

- ・新宿・・・都庁の展望台、思い出横丁、歌舞伎町、紀伊国屋書店、新宿御苑、散策、駅前の大きな通り、路地、都庁周辺の様子、東口の書店や商業施設、お店(洋服屋)、玉川上水が流れていた文化女子大学が立地するエリア、甲州街道、明治神宮
- ・原宿・・・竹下通り、明治神宮、代々木公園
- ・表参道・・・表参道ヒルズ、パンケーキ屋、並木道、参道橋、大通り、TOKYU PLAZA、歩道橋、色々なお店、表参道橋と書かれた石碑、渋谷川沿い、表参道にあるレストラン

「巡検のコンテンツと旅行ガイドブックに書かれているコンテンツの差異」について学生の意見を聞いた。主な意見は以下のとおりである。括弧内は著者の補足である。ただし括弧内が斜体の文字は学生の記述を示す。

- ・(旅行ガイドブックでは) 原宿ー表参道など広範な地図を使ってお店などのスポットを紹介しているのがよい。
- ・(旅行ガイドブックでは) 外観のわかる写真がたくさんあるので、目当ての店へ行きやすい。

- ・(旅行) ガイドブックで取りあげられないと分からない
小さなお店が取りあげられていること。
- ・(旅行ガイドブックでは) 散策するには高低差や坂の記
述が少ないので知らずに行くとか大変だろう。
- ・(旅行ガイドブックでは) 地図に通りの名前(青山通り、
明治通り、表参道)を書いて欲しい。書いていないと
迷ってしまいそうだ。
- ・市販のガイドブックでは商品(おいしい食べ物など)に
ついては細かく載っているが、店の外観については載っ
ていないので載っていると分かりやすいと思う。
- ・旅行ガイドブックには巡検のような地形やそれによる
歴史的な成り立ち等は書かれていないが、ガイドブッ
クを買う人がそのような情報を求めているのか疑問
なのでその情報は書かなくてよいのだろうと思った。
- ・市販の旅行ガイドブックはショッピングやご飯を楽し
むという際には使えるが、地形や歴史的な部分は足り
ていない。
- ・目的が違うので一概に言えないが、市販の旅行ガイド
ブックにも土地についての歴史的背景等が、もっと含
まれていても良いと思った。
- ・市販の旅行ガイドブックでは、現在の街について観光
目的で記述や場所の紹介があり、観光目的としては良
いと思う。限られた日数で満足することができると思
う。一方で、昔の街についての記述が殆どないので、
より深く地域を理解するためには簡単な歴史のコー
ナーがあっても良いと思う。
- ・(巡検では) クレープの変遷などの話もあったが、歴史
的な背景がガイドブックからは読みとれないのがも
ったいない。
- ・(旅行ガイドブックでは) 「なぜ」若者の町なのか、ク
レープが有名なのか、ファッションストリートなのか
…という理由づけの面がうすく、言及がほとんどない。
- ・(旅行ガイドブックでは) 地図上にカテゴリーごとにお
店の位置を示すことで、バスや車など公共交通機関を
使うより、歩いて行った方が楽しめることをアピール
しているように思う。(巡検では) 歩いて行くと、ガ
イドブックにはない、独自の発見、体験ができて良い
と思うので。ことりつぶは場所の範囲を限定してしま
っているようで好ましくなかった。
- ・市販の旅行ガイドブックでは、地名の由来や現在に至
るまでの歴史の説明がほとんど書かれていない。だが、
地図に関しては簡略化されているものの、地図を読む
のが苦手な人でも見やすいレイアウトになっている
のが良い。
- ・市販のガイドブックは、駅から近かったりショッピン

グビルであったりと、旅行者が行きやすい場所であつたりショッピングなど1つのことしか目的としておらず、紹介してあるのは「〇〇にある△△という店」であるが、巡検では「△△という店は〇〇のこういう場所にあるから…」と土地の成り立ちとつなげてまわられたので、こちらの方が広範囲で街について捉えられる。

また、「今回の巡検で一番興味を持ったところ、印象に残ったところはどこか」という質問に対する意見は以下の通りである。

- ・台地の上と下で建っているものやお店の質(高級とか)が違うところ。
- ・曲がっている道であつたり、三角形の細い建物等が川(水路)の跡であることを表しているということ。そしてそういった場所が新宿や原宿に多く存在していること。
- ・低地であるはずの竹下通りや表参道のラルフローレンのあたりが、人でにぎわうスポットになっている点を不思議に思った。
- ・地形を活かした土地利用がなされていること。一方で例外的な表参道の高級化が印象に残った。
- ・現在の地形が、水が出る場所や上水、川などに大きな影響を受けて形成されていた点。川に沿って歩くと崖や坂などで当時どのように流れているのか実感できたのが非常に興味深かった。
- ・渋谷川、玉川上水の跡。
- ・都庁の展望台から見下ろした時の、ランドマークの探し方。今までは展望台から景色を眺めても地図や案内板を見ないと位置関係がわからなかったが、今日説明を聞いてから見たら全く見え方が違った。
- ・他の巡検で、川沿いの低地は川の氾濫などのリスクがあるため、高級住宅街などは概して台地上にあると習ったが、今回は渋谷川のあつた場所が現在このような繁栄をみせている、という発見を得たこと。
- ・表参道エリアが、かつては低地で田舎であつたということ。また、竹下通りが渋谷川であつたことに関しても印象に残った。
- ・原宿のサブカルチャー的なエリアから渋谷川沿いを歩いていくと高級でおしゃれな感じな表参道につながるところを自分の目で見るのができたこと。
- ・水と土地の特性について。生活用水が通る場所が周辺やその街自体の性質を決めていることや、緑地の場所をつくっていて、そこに歴史を感じたが、最近では地理的にあまりよくない土地まで開発されていたので、

その変遷も印象に残った。

V まとめ

今回の巡検訪問地である新宿・渋谷・原宿・表参道は、学生にとってはショッピングとカフェやレストラン等のグルメスポットとして認識されていた。また、事前に配布した市販の旅行ガイドブックの中にもそのような情報が多く、行ってみたいおしゃれなカフェや雑貨屋を見つけている学生が多かった。

一方で、巡検ではグルメやショッピングの店を巡るわけではなく、もともとある地形（今回の場合、渋谷川によって削られた地形）やそれらを活かした土地利用、その歴史的な変化を解説した。その効果なのか、巡検実施後のアンケートで、もう一度当該地域を訪問するときに訪れたいポイントとして、カフェやショッピングといった娯楽だけではなく、土地利用、特徴、開発、様子、変化などの地理的な視点を答えていた学生も一部あった。以上のことから、学生の地域に対する興味の視点を大きく分けると、グルメやショッピングのような娯楽的要素と地理的視点に基づいた地域の観察に二分される。

巡検によって得られる情報はある意味勉強であり、娯楽中心の市販の旅行ガイドブックには載っておらず、学生の反応としては、市販の旅行ガイドブックにそのような地形や歴史的説明も載せた方が良いという意見と、もともと旅行ガイドブック自体にそのような情報が求められておらず必要ないという意見があった。

筆者は現在、地理的な視点を広く一般の人へ広める手段として、地誌的視点を取り入れた旅行ガイドブックに興味を持っている。その初めの段階として、旅行ガイドブックのコンテンツのどのような部分に学生が惹かれているのか、また巡検のコンテンツのどのような部分に興味を持ったのかをこの論文の中で予察的に考察した。今回のアンケート対象者は地理学を専攻している学生であることから、もともと地理学に興味があり、一般の人に比べて巡検のコンテンツやそれを学ぶことにも興味を持っている可能性が高い。そのような学生であっても、今回取り上げた地域に対して、グルメやショッピングという視点で惹かれている人が多かったことは注目すべき点と考える。

一般旅行者の旅行の中に地理的なコンテンツをうまく組み入れることで、裾野の広い地理の一般普及が出来ると考えられる。一般の人にも興味を持ってもらえるように、あまり固いお勉強になりすぎず、娯楽と勉強をうまく融合させた巡検的な旅行を作り上げることは可能だろうか。今回のアンケートの結果に基づけば、地理の学生でも興味を持っているようなグルメやショッピングを取り入れつつ、学生が興味を持った地理コンテンツ（今回の場合には土地利用と川の跡が多かった）も入れた巡検プランを立ててみるのが一案である。地理に興味のない一般の旅行者が、ガイドブックの中で地形や土地利用の説明文を見たときに興味を持つかどうかについては今後検討していきたい課題である。

今回の巡検はあくまで普通の一日巡検として行い、そこに市販の旅行ガイドブックを提示してアンケートに記入してもらうというかたちで、学生の旅行と巡検の認識の違いを簡単に調査したに過ぎず、あまり深い考察は出来なかった。「旅行と巡検の違いは何か、融合できるのか」というテーマで、地誌の説明と市販のガイドブックを見比べながらまた議論しながら歩く巡検というのも今後実施を検討したい。

付記 巡検実施ならびに図1の作成にあたっては、三重大学谷口智雅特任教授の協力を得た。また青山学院大学での昼食とタワーからの眺望にあたっては、青山学院大学の戸田真夏氏と高橋朋一氏に便宜を図っていただいた。

本研究はJSPS科研費、平成26～28年度挑戦的萌芽研究「地誌的視点を取り入れた旅行ガイドブックとその一般普及に関する基礎研究」(研究代表者 長谷川直子、課題番号26560154) およびJSPS科研費、平成26～28年度挑戦的萌芽研究「初等教育現場で教員が効果的に教科力を養える地域学習教育教材づくり」(研究代表者 宮岡邦任、課題番号26580142)を使用した。

文献

昭文社 2008.『ことりっぶ東京』昭文社。

昭文社 2013.『まっぶる東京ベストスポット』昭文社。

はせがわ・なおこ

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科

Differences between Geographical Excursions and Travel: Based on the Questionnaire by Participant Students

HASEGAWA Naoko (Humanities and Sciences, Ochanomizu University)